香川県道路交通環境のあり方検討

報　告　書

平成25年3月

香川県道路交通環境のあり方検討委員会

道路交通環境のあり方検討報告にあたって

平成24年の全国における交通事故の発生状況については、交通事故死者数が12年連続で減少するとともに、２年連続で3桁台の減少となりました。

一方、本県では昨年、交通事故死者数が２年連続で前年に比べて増加し、人口10万人当りの死者数が、２年連続で全国ワースト第１位となったほか、高齢人口10万人当たりの高齢死者数や人口１万人当たりの交通事故発生件数も、全国ワースト上位に位置するなど、極めて憂慮すべき結果となりました。

交通死亡事故の抑止に向けては、交通社会を構成する「人」、「車」、「道路」の３つの要素について効果的に対策を進めるとともに、「安全教育」、「取締り」、「道路交通環境」の交通安全対策を総合的に進めていく必要があります。

このため、本検討委員会では、昨年度に実施した「香川県交通事故多発要因調査」の結果を踏まえ、交通事故の起こりにくい「道路交通環境整備のあり方」に着目しながら、安全で快適な道路交通環境の整備のあり方や、今後の本県における交通安全対策に反映させるための効果的な対策を検討してきました。

その結果、道路交通環境を整備する方向性については、「分離」、「認識」、「速度抑制」、「円滑化」に着目した上で「香川県交通事故多発要因調査」の結果から抽出された「高齢者」「交差点」「自転車」を中心に、一般ドライバーにも有効な施策をメニュー化しました。

さらに、本県の路面のカラー化等における使用色の施工方針を示しました。

本報告書における検討結果を、県内における道路管理者の皆様が整備を行う際の参考としていただくことで、人優先の安全で円滑な交通環境の整備に向けた取組みの一助となれば幸いです。

平成２５年３月

香川県道路交通環境のあり方検討委員会